

ELNEC-J コアカリキュラムの普及のための京都府内 での取り組み

看護部管理室 大内 紗也子

ELNEC(The End-of-Life Nursing Education Consortium)は、2000年に米国のアメリカ看護大学協会とCity of Hope National Medical Centerが共同で設立した組織である。ELNECは、エンド・オブ・ライフケア(EOL ケア)や緩和ケアを提供する看護師に必須とされる能力修得のための系統的な教育プログラムを開発しており、これまで開発したプログラムには ELNEC-Core、ELNEC-Pediatric Palliative Care(小児)、ELNEC-Critical Care(急性期)、ELNEC-Geriatric(老年期)などがあり、現在までに世界100か国で11言語のELNECが誕生している。

日本は、アジアで最初にELNECを導入した。2007年～2009年度厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「がん医療の均てん化に資する緩和医療に携わる医療従事者の育成に関する研究」班(分担研究者 竹之内沙弥香)の一環としてELNEC-Coreの日本語版である、ELNEC-Japan(ELNEC-J)コアカリキュラム指導者養成プログラムが開発された。2009年より日本緩和医療学会の事業の一環として教育研修委員会内ELNEC-J作業部会がELNEC-Jコアカリキュラム指導者養成プログラムを開催し、全国に2046名(2019年5月現在)のELNEC-J指導者(ELNEC-Jの教材を活用した教育を実践できる者)が誕生し、ELNEC-Jコアカリキュラム修了者は全国に約3万人に上っている(緩和医療学会ホームページより)。しかしこれは就業看護師の3%に満たない数字であり、今後もELNEC-Jコアカリキュラム修了者を増やしていく必要がある。

日本においてはELNEC-Jコアカリキュラムのほかに、ELNEC-JG(高齢者版)、ELNEC-J Critical Care(急性期版)、ELNEC-J Pediatric(小児版)が開発されている。我が国は2025年には75歳以上の人口の割合が18.1%を超え、5人に1人近くが75歳以上となる超高齢社会を迎える。これはすなわち多死社会を迎えるということである。国民の総死亡数が増加し続ける中で、看護師は人々のQuality of Life(QOL)を維持・向上させること、患者の尊厳ある人生の最後を支えとともにその家族に安心を与えること、つまり”質の高いEOLケアを提供する”という重要な役割を担っている(図1参照)。

京都府においては、2011年度より「京都府がん医療戦略推進会議 緩和ケア部会 看護師研修に関する会議」が立ち上がり、京都府内のがん拠点病院及び連携拠点病院から看護師が参加して会議を行っている。その中で、看護師の研修としてELNEC-Jコアカリキュラムを2011年度より行うこととなった。都道府県が主催となって開催されたELNEC-Jコアカリキュラムとしては全国で初めての試みである。本会では、京都大学医学部附属病院及び京都府立医科大学病院、京都府の事務及び看護職など関係者が協力、リーダーシップをとり、がん拠点病院、連携拠点病院の関係者と協力してELNEC-Jコアカリキュラムを運営している。今年度で9年目となり、合同で開催することにより各病院の関係者と関係性を構築する機会にもなっている。京都府

内の死亡者数は、平成 29 年は 2.6 万人であり、死因の第一位は悪性新生物（総死亡数に占める割合 28.9%）であった（京都なび）。2025 年には京都府内で 3 万人もの死者数を見込んでいる。このような社会情勢の中で京都府内の看護師が ELNEC-J コアカリキュラムを修了し、一丸となって「質の高い EOL ケア」を提供していくようになることは本会のミッションである。実際、どのくらいの看護師に ELNEC-J コアカリキュラムを修了してもらいたいのか試算を行った。京都府内の看護師従事数は 18000 人程度であり、全従事者の 10%に ELNEC-J コアカリキュラム修了者を見積もると、約 1800 人を養成する必要があるが出てきた。容易に達成できる目標数ではないが、年間 100 名程度の修了者を養成することを目標に取り組んでいる。現在までに京都府がん医療戦略推進会議 緩和ケア部会主催の ELNEC-J コアカリキュラムは計 9 回開催され、500 名弱の ELNEC-J コアカリキュラム修了者を輩出している。さらに 2018 年度からは、拠点病院でも ELNEC-J コアカリキュラムを開催することができるように京大病院から講師を派遣し、また、京都府の部会で ELNEC-J コアカリキュラムの企画・運営マニュアルを作成・配布するなどの工夫を行いつつ、各施設で開催できるようサポートを行っている。その効果もあり、昨年度は当院を含めた 9 施設でそれぞれ ELNEC-J コアカリキュラムを開催した結果、修了者数は 256 名となり、いっきに増加した。修了者からは、とりわけ患者を QOL の視点からアセスメントする方法を理解することができた、EOL にある患者とのコミュニケーションについて学ぶことができたなど、高い満足度が得られている。

今後の課題としては、京都府内の拠点病院及び連携拠点病院など各施設で行われる ELNEC-J コアカリキュラムの質を維持していくための工夫及び開催のサポートを行うことである。ELNEC-J コアカリキュラムを各地に広め、現場で働く看護師の EOL ケアにおける質の向上により一層努力していきたい。

Module1:EOL ケアにおける看護	Module6:コミュニケーション
Module2:痛みのマネジメント	-患者の意思決定を支えるために-
Module3:症状マネジメント	Module7:喪失・悲嘆・死別
Module4:EOL ケアにおける倫理的問題	Module 8 : 臨死期のケア
Module5:EOL ケアにおける文化への配慮	Module 9 : 高齢者の EOL ケア
	Module10:質の高い EOL ケアの達成

▲ELNEC-J コアカリキュラム プログラム(図1)

引用

緩和医療学会ホームページ: http://www.jspm.ne.jp/el nec/el nec_about.html

京都府統計ナビ ホームページ

<https://www.pref.kyoto.jp/tokei/monthly/tokeikyoto/tk2018/tktokushu201808.pdf>